

平成24年度第4回経営戦略会議 会議結果の概要

開催日時	平成24年5月29日（火）午後2時30分～午後3時43分	
開催場所	本庁 東庁舎4-2会議室	
出席者	市長、副市長、総務部長、情報戦略局長、環境生活部長、健康福祉部長、産業観光部長、都市整備部長、教育部長、上下水道部長、病院事務部長	
審議事項		
1	回復期リハビリテーション病棟の開設について	<病院事務部>
2	倉田山公園整備の基本設計（案）について	<都市整備部>

1 回復期リハビリテーション病棟の開設について<病院事務部>

概要

地域住民の医療ニーズが後期高齢者へシフトする中、今後は急性期医療だけでなく、回復期医療等への対応が求められているが、南勢志摩保健医療圏においては、回復期リハビリテーション病床が不足している状況にある。

地域内での急性期、回復期、維持期の円滑な転院・退院、患者受入れができるよう、市立伊勢総合病院において、回復期リハビリテーション病棟を開設すること、また、このことに伴い、既存の療養病床を休止することについて、審議を行った。

(1) 整備概要

①計画病床数

回復期リハビリテーション病床 30床

※現在の療養病床37床については、休止

②開設時期

平成25年9月

③整備箇所

5階東病棟（現在の療養病棟）

(2) 必要とする職種及び人員

理学療法士9名、作業療法士5名、言語聴覚士1名、社会福祉士2名
医師1名、看護師10名、看護補助者5名

(3) 収支見込み

(単位：千円)

年度	収入	支出	差引き	備考
平成25年度	115,988	207,773	△91,785	病棟整備費6,000含む 備品購入費19,600含む
平成26年度	277,674	219,679	57,995	
平成27年度	277,674	219,679	57,995	
計	671,336	647,131	24,205	

※平成25年度（1日平均入院患者数：20人、稼働日数：212日）

※平成26、27年度（1日平均入院患者数：24人、稼働日数：365日）

結論 回復期リハビリテーション病床を開設することとするが、療養病床については、規模を縮小させ、継続することと決定した。

主な意見・補足等

- ・回復期リハビリテーション病床の必要性は理解できるが、療養病床を休止することについては、疑問である。休止しても地域医療体制に問題が生じないという根拠が必要である。本地域における療養病床の必要数はどの程度か？
⇒地域における必要数は把握していないが、現在、本病院においては、療養病床が37床あり、1日平均13床が稼働している状況である。なお、南勢志摩保健医療圏においては、療養病床に比べ回復期リハ病床のほうが、地域ニーズは高いと判断している。
- ・療養病床を休止するのではなく、一般病床や空き病床を回復期リハ病床に変更することはできないのか？
⇒療養病床から回復期リハ病床に変更するには、軽微な改修でよいが、一般病床を回復期リハ病床に変更するには、改修に多額の費用を要する。また、5階西病棟、旧1病棟（現カルテ庫）、を療養病棟又は回復期リハ病棟に改修することも可能ではあるが、施設の課題だけでなく、医師・看護師確保に対する課題もある。
- ・療養病床と回復期リハ病床を両立させることはできないのか？
⇒新病院建設時には、議論が必要であると考えている。ただ、現状では、施設改修の問題、そして医師・看護師確保の問題等を勘案し、療養病床を休止することは止むを得ないと考えている。医師については、現在の療養病床の医師を回復期リハ病床の医師とすることを想定している。また、職員については、絶対数が不足してしまう。

- ・現在の療養病床37病床の中で、療養病床と回復期リハ病床をバランスよく配置できないのか？

⇒効率は悪くなるが、可能である。また、病院内の空き病床を点在させずに、圧縮すれば効率は良くなるが、圧縮することにより生じる課題もあることから、今後検討する。

資料 付議事項書

2 倉田山公園整備の基本設計（案）について〈都市整備部〉

概要

倉田山公園の都市計画区域の変更に伴い実施している基本設計における、その考え方等について、審議をおこなった。

（1）基本的な考え方

平常時と大規模災害時の使用方法を考慮し、検討を行なう。

①平常時

スポーツ・レクリエーションの場とするとともに、公園教養施設において防災学習を通し、市民の防災思想や防災知識の普及啓発及び意識向上の場として整備する。このことから、公園利用者の安全性においては、公園歩行者と公園内通過車両の分離を行い、安全性を向上させる。利便性においては、野球場のリニューアル整備を考慮し、公園内の駐車台数が増加するよう、駐車場の検討を行なう。

②大規模災害時

大規模災害時には物資等の受入れや自衛隊、警察、消防など防災関係機関の応援が円滑に受けられる場を想定する。このことから、大規模災害時における活動の場、緊急車両の進入と道路について検討を行なう。

（2）主な事業内容

①Aゾーン【平常時：多目的広場、大規模災害時：防災関連機関活動拠点】

サブグラウンドの機能を移設し、多目的広場・駐車場を整備する。

- （ア）多目的広場整備（野球練習場、グラウンドゴルフなど、駐車場として利用時の駐車台数185台）
- （イ）多目的広場周辺施設整備（柵、防球ネット、擁壁、雨水排水施設等）
- （ウ）休養・修景施設整備（園路、ベンチ、植栽等）
- （エ）駐車場整備（駐車台数135台）
- （オ）擁壁整備（法面植栽）

②Bゾーン【平常時：野球場、大規模災害時：一時避難所】

一時避難所として利用できるよう、耐震構造となる倉田山公園野球場を改築する。

③Cゾーン【平常時：駐車場、大規模災害時：防災関連機関活動拠点】

平常時は公園利用者用の駐車場とし、災害時は防災関連機関活動拠点となるよう、国道23号からの進入道路と合わせて整備する。

- （ア）駐車場整備（駐車台数91台）
- （イ）休養・修景施設整備（園路、ベンチ、植栽等）

(ウ) 進入道路整備

④Dゾーン【平常時：防災センター、大規模災害時：市の災害活動拠点】

防災センターを整備し、災害時は市の第二指令塔として災害活動拠点となるよう整備する。

(ア) 防災センター（防災体験学習施設、物資備蓄倉庫等）

(イ) 駐車場整備（駐車台数38台）

⑤その他

公園利用歩行者の安全性を考慮し、園内の遊歩道と道路を整備する。また、駐車場を2箇所整備し、それぞれ46台及び12台を確保する。

結論 提案どおりの考え方で、基本設計を進めることと決定した。

主な意見・補足等

- ・伊勢学園高等学校前の伊勢南島線からの既存進入道路は、閉鎖するのか？
⇒現状は変えないため通行は可能であるが、視認性が悪いことから、公園利用の歩道と考えている。ただし、大災害時には、開放を行い進入が可能とする。
- ・危機管理上の対応が必要となると思われるが、ヘリコプターの離発着は可能か？
⇒野球場を想定しているが、侵入角が確保されるかどうか等の課題があり、整備が完了後、関係機関と調整したい。
- ・野球場の照明灯については、設置する高さが重要と聞かすが、検討しているか？
⇒照明灯は、現在設置されている照明灯を残す予定である。
- ・今後、事業の実施にむけての実施設計において、関係機関と詳細設計協議を行うことから、進入道路の線形角度、駐車台数等において、変更は生じることは考えられる。

資料 付議事項書